

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	企画政策課
会議名 (審議会等名)	令和8年度第3回嬉野市総合計画審議会・総合戦略推進委員会		
開催日時	令和8年7月23日(木) 9:30～11:00		
開催場所	嬉野市中央公民館（塩田公民館）2階 視聴覚室		
会議の公開の可否	㊦ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員 (敬称略)	戸田順一郎、深村頌子、坂口典子、宮崎憲太郎、谷山佳世、久野裕子、山口輝、一ノ瀬稔、小野裕介	
	事務局	政策部長、企画政策課長、副課長、主査	
	その他		
会議の議題	① 開会 ② 協議事項 （1）パブリックコメント結果報告 （2）外部団体ヒアリング結果報告 （3）第3次嬉野市総合計画案・総合戦略案の最終審議 ③ 閉会		
配布資料	① 令和8年度第3回嬉野市総合計画審議会・総合戦略推進委員会次第 ② パブリックコメント意見・回答案 ③ 次期総合計画・総合戦略（案）に係る外部団体ヒアリング実施報告書		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	企画政策課
議 題	1. パブリックコメント結果報告 2. 外部団体ヒアリング結果報告 3. 第3次嬉野市総合計画案・総合戦略案の最終審議		
内 容	1. 事務局より説明。委員質問・事務局回答、委員の意見等 2. 事務局より説明。委員質問・事務局回答、委員の意見等		
審議経過		1. パブリックコメント結果報告 (パブリックコメント意見・回答案について説明) 2. 外部団体ヒアリング結果報告 (パブリックコメント意見・回答案について説明)	
	委員	パブリックコメントの件数は、この6件が総数なのか。また、募集期間や募集方法はどのようなようであったか。	
	事務局	総数は6件である。募集期間は6月中旬から7月中旬までの約1ヶ月間。募集方法としては、市のホームページへの掲載、回覧板の送付、および市内6箇所の公共施設に意見箱を設置した。	
	委員	市民2万数千人に対して6件という数字は少ないのではないか。意見として十分に反映できる母数なのか。もう少したくさん集まるような工夫（インセンティブを設けるなど）はできなかったのか。	
	事務局	前回の第2次後期計画時のパブリックコメント提出数は7件であった。他の個別計画のパブリックコメントでは0件や数件という事例が多く、1人の方が複数件を提出されるケースもある。これらと比較すると、今回の6件は極端に少ないわけではないと考えている。	
	議長	パブリックコメント制度自体が始まって久しいが、制度上の周知や参加の難しさという根本的な課題もある。	
	委員	パブコメだけで多くの意見を集めるのは難しいという制度上の課題は理解した。今回は件数こそ少ないが、どの意見も非常に具体的かつ熱意のある内容で、ありがたい。特定の強い意見を持つ人ばかりが目立つのを懸念したが、今回はそうではない。回答と市の受け止めをしっかりと公開して、丁寧にフィードバックしてほしい。	
	議長	パブリックコメントの制度上の課題もある。確かに6件は多くはないが、各件ともしっかりと意見を出していただいている。	

委員	パブリックコメント 4 件目において、国勢調査の出典が令和 2 年となっているが、これは正しいか。また、回答に「誤りはございません。平易な表現・簡潔な内容とする方針としているため掲載は見送り」とあるが、「誤りはない」という言い方は少しストレートすぎるのではないか。「難しいからあなた方には分かりませんよね」と言われているようにも受け取れる。分かりやすく伝える工夫をすることこそが市の役割ではないか。
事務局	令和 7 年の国勢調査は実施されているが、まだ国からのデータ取りまとめが公表されていないため、公表できる最新の確実なデータとして令和 2 年の国勢調査を用いており、数値に誤り自体はない。しかし、ご指摘の通り回答の表現が不適切であったため、表現を丁寧な形に調整する。また、市民に分かりやすく提示する工夫として、人口ピラミッドや世帯構造別のデータは総合計画本体への掲載は見送るものの、別の関連資料（総合戦略の資料編等）において、グラフや表を用いて視覚的に分かりやすく整理して掲載する方向で回答と記述を修正したい。
委員	6 件と少ないからこそ、提出していただいた方の気持ちに寄り添い、丁寧な回答をしてフィードバックしていただきたい。
議長	外部団体ヒアリング報告書については公表するのか。また、これらは貴重なご意見だが、市として何らかの回答を示す予定はあるか。
事務局	現在検討しているのは、計画書の各章の扉部分などに、ワークショップやヒアリングで出た意見を、イラストや吹き出しなどのデザインを交えて「市民の声」として掲載することである。特定の団体名や個人名がそのまま出ることはない。また、意見に対する直接的な回答書としての公表は想定していないが、毎年改定を行う総合戦略の中で、具体的な事業の実施タイミングに合わせてこれらの意見を反映し、実際の取り組みに繋げていきたい。
委員	ヒアリングの対象団体について、商工会向けのヒアリングは行われなかったのか。
事務局	各部門の代表が本委員会に参加されているため、別途のヒアリングは想定していなかった。しかし、終了後、事前にお声がけしてご意見を伺う場を設ければより良かったと感じており、配慮が不足していた。
委員	どういう基準で今回のヒアリング団体を選定したのか。

事務局	地域の中で実際に活動され、ステークホルダーとなるような団体(思い当たる方々)を事務局の判断で選定した。事前に本委員会に選定基準や対象団体をお諮りしておくべきだったと反省している。
委員	ヒアリング対象の Happy Care Life 株式会社は一福祉法人だが、百歳体操や e スポーツ導入について疑問を呈している。なぜこの団体を選定したのか。
事務局	Happy Care Life 株式会社は福祉分野に留まらず、地域づくりでも活発な活動実績があるため、その知見から地域づくりの視点での意見を伺いたく選定した。
委員	福祉・地域づくり分野のヒアリングにおいて、対象団体の具体的な名前や意見がそのまま計画書に記載されるのか。
事務局	先ほど申し上げた通り、具体的な個人名や団体名、詳細な発言がそのまま掲載されることはない。あくまでも市民の声のイメージとして抽象化し、デザイン性を持たせて掲載する。
委員	報告書にある「やらされ感」という表現は、計画書等の表に出る部分には使わない方がよい。
事務局	この「やらされ感」は事務局側が感じているものではなく、住民コミュニティの参加者側から「やらされ感がある」という課題認識として発言されたものである。たとえ参加者の発言であっても、文字としてそのまま載ると「使命感を持って取り組んでいる人たちが」が誤解したり、嫌な気持ちになったりする。直接話したニュアンスが分からないと、言葉が歪曲して伝わるリスクがあるため、慎重な表現にしたい。
委員	茶業のヒアリングについて、今回は「茶業青年会」に行っているが、販売を行う茶商などの意見は聞かなかったのか。生産側と販売側では意見が異なるはずだ。また、交通分野でも JR 九州だけでなく、地元のタクシー会社などにも話を聞くべきだったのではないか。
事務局	確かに販売側や地元タクシー会社へのヒアリングも重要であった。今回は事務局が選定した団体に絞ってしまった。ただ、地域公共交通については、今年度「地域公共交通計画」を別途策定中であり、そのプロセスで地元タクシー会社等の事業者へのヒアリングや協議を別途実施しているため、そちらと整合を取りながら進めていく。
委員	公共交通については嬉野に限らず塩田も課題となっている。

委員	パブリックコメント3番において、「町単位での小学校の統合を早期に進めていただきたい」という意見があるが、これは1名の方だけの意見か。それともまとまった声か。
事務局	パブリックコメントの提出としてはお一人からのものである。現在、市として小学校統廃合の具体的な動きはないが、今後の教育環境のあり方を協議するための「協議体制の構築」に向けた準備は教育委員会において進められている。
委員	今回の外部ヒアリングを受けて、総合計画や総合戦略の計画案の中で具体的に変更した点はあったのか。
事務局	観光・移住分野における、塩田津の来訪者数目標（KPI）について、ヒアリングでの「1.5倍（1万5000人）までは目指せる」という前向きな意見を踏まえ、当初の1万3000人から1万5000人へと目標値を上方修正した。
委員	パブコメを寄せていただいた方は、非常に真剣に考えてくれている。今後の地域のキーマンにもなり得る方々なので、回答も含め、しっかりとフィードバックを行って関係を大切にしてほしい。
3. 第3次嬉野市総合計画案・総合戦略案の最終審議 （第3次嬉野市総合計画案・総合戦略案について説明）	
議長	事務局からの説明について、委員の皆様からご意見・ご質問等はいかがでしょうか。
議長	今回初めて追加された「工程表」について質問したい。国が求めている工程表の「正解」や、どの程度の抽象度で書くべきなのかがイメージしづらい。事業の抽象度が高くなると、5年間ただ「事業実施」と書くだけになり、工程表として載せる意味が薄れるように感じる。作成にあたり、事務局としてどのような整理や検討を行ったのか。
事務局	国が示した手引きでは、具体的な施策や事業に紐づく工程表を作成するよう求められており、その例示もかなりざっくりとしたものであった。当市としては、既存事業を中心に各課へ照会し作成した。今回の工程表で意図したのは「分野横断的な取り組みの可視化」である。1つの施策に対して多様な分野の事業が関わっていることを示そうとした。確かに、単年度で同じ内容を継続する事業は毎年「事業実施」としか書けず、これだけでは具体的に何を行うのか見えにくいという課題は内部でも議論になった。そのため、この工程表をそのままにするのではなく、総合戦略の毎年の効果検証において「指

		標管理」「工程管理」「進捗管理」の3つの管理を行い、内部管理用の詳細な進捗表を作成してPDCAを回していく。工程の変更や詳細な内容は、そこでしっかりと管理・追加していく方針である。
	議長	交付金事業であれば3～5年の複数年計画があり、各年度の工程が描きやすいが、一般財源の経常事業は単に「事業実施」と並べるだけになりがちだ。一般財源の経常事業まで一律で工程表に載せるべきかについては、今後の運用の中で、必要性や書き方を再検討してレベルを整理していくのがよいと思う。
	事務局	おっしゃる通り、基本的には交付金を活用する複数年事業が工程表に馴染みやすい。一般財源事業での書き方や掲載の有無については、今後の実務運用の中で、より効果的な示し方を検討させていただきたい。
	委員	以前にも指摘したが、7ページの「若者・女性の働く環境」について、新規の起業支援や企業誘致だけでなく、既存の地元企業が若者や女性にとって働きやすい環境（育休取得や労働環境の改善など）を整えられるような、直接的な支援策は計画に盛り込めないのか。
	事務局	行政から民間の各事業所に対して「労働環境をこのように改善してください」と直接働きかけることは実務上非常にハードルが高く、男女共同参画等の観点からも直接的な施策として計画に明記することは難しいのが実情である。行政として直接取り組めることとしては、まずは市役所自体の育休取得率向上などの模範的な取り組みに留まる。そのため、表現の工夫として「キャリア形成支援の推進」という形で、若者や女性が地域で自らの希望に応じたキャリアを描ける環境を整備するという、間接的な表現で盛り込ませていただいた。
	委員	環境整備という言葉を使うからには、具体的にどのような状態を目指すのか、目標が必要だと感じる。また、KPIにある「高校生世代のアンケートで働く選択肢が少ないと感じる割合」について、これは世の中にどんな仕事があるかを高校生が単に知らないだけなのか、本当に嬉野市内の雇用環境として選択肢が少ないのか。もし世の中の職種を知らないだけなら、高校でのキャリア教育などで教えるべきだ。また、嬉野の雇用環境の改善を測る指標として、高校生の主観的なアンケートのみに頼るのは少し間接的すぎるのではないか。
	事務局	嬉野市内の雇用環境の改善を直接的・客観的に測定できる適切な統計データが不足しているため、代替りの指標として高校生の意識アンケートを活用している。高校生の視点から見て、市内の雇用や働く環境に魅力や選択肢が増えたと感じられるかを測る指標として位

		置づけている。
	委員	アウトプット指標にある「合同企業説明会の出展数」について、これは市の担当者が積極的に市内外の企業に働きかければ、5年後にはもっと増やせるものではないか。なぜ目標値が70社のまま固定されているのか。
	事務局	担当課に確認したところ、現在開催している会場のキャパシティが、土日それぞれ35社（計70社）でほぼ限界に達している。そのため、現行の目標値70社は会場キャパを前提とした最大限の数値を設定している。今後これ以上の拡大を目指す場合は、会場自体の変更や、指標そのものの見直しを検討することになる。
	議長	他に質問等はないか。 ないようであれば、質疑応答はここまでとする。事務局から提案がありました総合計画・総合戦略の最終案について、本日ご審議いただいた内容を反映・更新することを前提として、審議会としての総意で承認し、市長への答申を行うこととしてよろしいでしょうか。 (異議なしの声)
	議長	それでは、以上の内容で第3次嬉野市総合計画・総合戦略を承認し、審議会での総意として答申とする。
	事務局	今後のスケジュールについて説明する。本日の会議終了後、会長から市長に対して答申書を提出していただく。その後、9月の市議会に議案として上呈し、可決された後、10月に総合計画・総合戦略として正式に策定・公表する予定である。次回（10月頃）の審議会でのその結果を報告予定。また、現在、総合計画の冊子のデザイン制作を進めており、12月頃に納品される予定である。出来上がり次第、委員の皆様にもお渡しする。
その他		次回審議会の開催は令和8年10月頃を予定。次回は総合戦略の現行計画（令和7年度）の効果検証の報告を行う想定。